

## 講演会のお知らせ

主催：東北大学超臨界溶媒工学研究センター、  
共催：化学工学会東北支部、宮城化学工学懇話会、産総研東北センター  
参加費：無料  
日時 平成16年7月2日午後 3:00～5:30  
場所 東北大学工学部化学・バイオ系小講義室2

関心のある方のご来場歓迎します。

講演1 3:00～4:10  
講師 新潟大学大学院自然科学研究科  
教授 渡辺敦夫先生

### 「産官学連携研究の推進－農水省食総研・東陶機器・新潟大学－」

#### 講演概要

演者が専門とする食品工学は、実際の製造現場を想定して研究課題を設定することが多いので、必然的に民間企業との共同研究が多くなる。この傾向をさらに強くさせたのが、1982年度に鉱工業技術研究組合制度に基づき初めて農林水産省が設立した『食品産業膜技術研究組合(1987年度まで)』、さらに1988年度から『食品産業システム技術研究組合(1991年度まで)』であり、研究組合運営の推進役を務めさせて戴いた。

こうした経歴の元に、東陶機器(株)基礎研究所長等を経て、現在、新潟大学に勤務し、地場食品企業の抱える共通基盤的問題点の基礎的研究開発を推進している。

さらに、1989年に産官学の有志が設立した『食品膜技術懇談会(MRC)』や1999年に設立した『新潟県食品膜技術研究会(2004年より、新潟県食品技術研究会と改称)』の活動等を通じて学んできたことを紹介させて戴きたい。

講演2 4:20～5:30  
講師 埼玉県産業技術総合センター  
総長 遠藤 勲先生

### 「埼玉県における産・官・学連携の実態と地方公設試の役割」

産・学・官連携がマスメディアを通じて喧伝されるようになって久しい。埼玉県では、全産業の99.2%を中小企業が占めているが、そのような企業の知的財産の創造、保護、活用を促し、新技術・新産業の創出を図るため、企業への情報提供や人材育成などを進めることによって、県内の大学や研究機関と企業による連携が、件労働商工部を中心に強力に推進されている。

具体的には、埼玉県知的財産戦略の策定、技術経営フォーラムの開催、MOT教育機関への県職員の派遣、産学連携ハンドブックの作成・配布、TLOとの連携事業など今年度さらに行う方針が出されている。このため、県は埼玉県創業・ベンチャー支援センターを新しく設置し、コーディネータを配置するようにした。弊センターは、このような県の方針にそって、以下の7つの旗印を掲げて活動している。(1)環境、福祉、IT・映像、バイオテクノロジー、もの作り基盤技術の5テーマに特化した研究開発、(2)産・学・官の連携コーチネートを積極的に行い、研究コンソシアムに取り組む。(3)研究および技術支援、(4)異業種交流、(5)情報提供、(6)インキュベーション・ラボラトリーの整備・提供、この範疇の中に県内8理工系大学用交流オフィスも含まれる。(7)人材育成。以上のような弊センターの活動に対し、昨年度末顧客満足度調査を行った(2月27日)結果、80点以上の高い評価を得ることができた。本講演では、さらに具体的に弊センターの活動を紹介し、産・学・官連携の実態と問題点を述べたい。